



BANCO CENTRAL DE VENEZUELA

## 8 DE SEPTIEMBRE

### Promulgación de la Ley del BCV

La ley que dispuso la creación del Banco Central de Venezuela fue promulgada el 8 de septiembre de 1939. Un año después, el 15 de octubre de 1940, el instituto emisor inició formalmente sus operaciones.

(写真) ベネズエラ中央銀行 “2022年の外貨準備の推移を確認”

## 2022年の外貨準備推移

株式会社ベネインベストメント  
松浦 健太郎

ベネズエラ中央銀行は、2022年12月末時点の外貨準備の詳細を公表した。

米国の経済制裁を受け、且つデフォルト状態にあるベネズエラは特殊ではあるが、通常であれば外貨準備は国債の支払い原資として、あるいは政府が緊急的に資金を必要とする際に使用する緩衝材のような役割を果たしている。

本稿では、2022年12月末時点のベネズエラ外貨準備について確認したい。

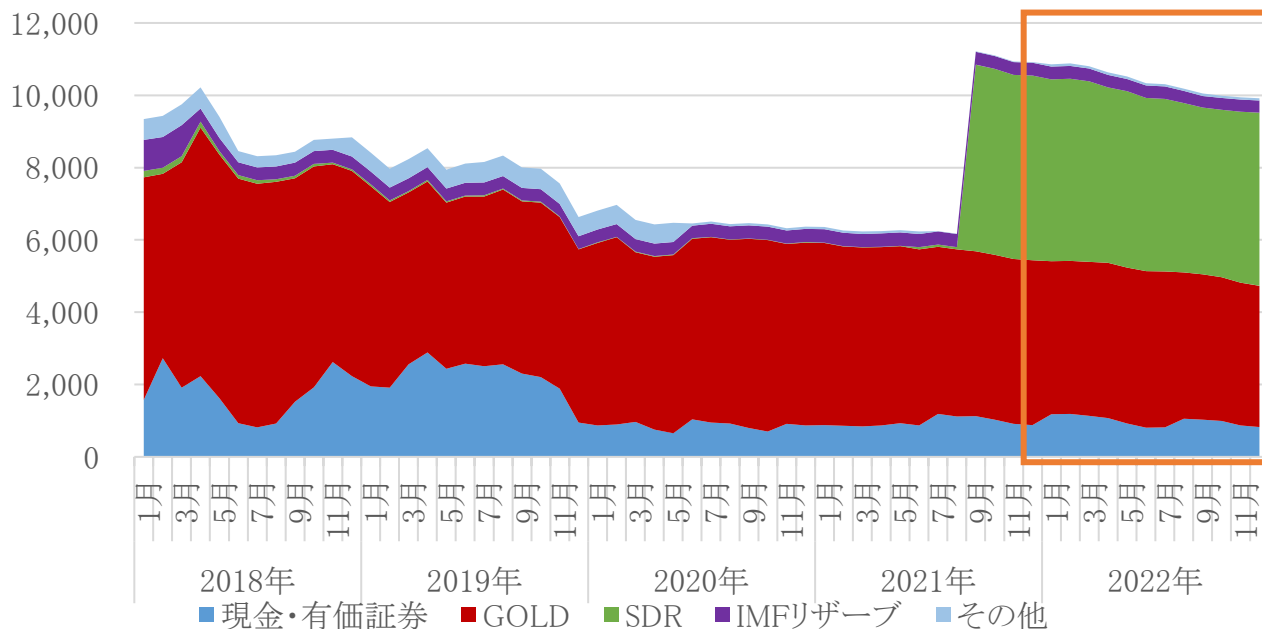
## 未払金の支払い原資となる外貨準備

現在のベネズエラ政府は米国の経済制裁を受けて、外貨建ての決済に著しい制限がある。そのような状況で外貨準備は以前より重要性が失われた。

しかし、現在でも外貨準備は国内の金融機関に外貨を供給することで、為替レートを安定させる手段として使用されている。また、将来ベネズエラの債務再編が可能になった場合の支払い原資であることは変わりなく、潜在的な重要性は失われていないだろう。

最初に2018年～22年末までの外貨準備の推移、2022年1月～12月の外貨準備の詳細を表とグラフで紹介したい。

グラフ： 外貨準備高の推移(2018年1月～22年12月) (単位： 100万ドル)



(出所) 中央銀行(GOLD、外貨準備総額、その他)、IMF(SDR、IMFリザーブ)

表： ベネズエラの外貨準備推移(2022年1月～22年12月) (単位：百万ドル、%)

	2022年						
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
現金・有価証券	841	846	813	1,071	923	809	813
GOLD	4,570	4,573	4,582	4,297	4,315	4,329	4,315
SDR	5,025	5,036	4,991	4,853	4,870	4,792	4,776
IMFリザーブ	355	355	352	343	344	338	337
その他	68	68	68	68	68	67	67
合計	10,859	10,878	10,806	10,632	10,520	10,335	10,308

	2022年					割合	前年 同期比
	8月	9月	10月	11月	12月		
現金・有価証券	1,056	1,028	990	873	823	8.3	△ 6.1
GOLD	4,041	4,017	3,980	3,947	3,910	39.4	△ 14.3
SDR	4,690	4,612	4,625	4,724	4,782	48.2	△ 6.4
IMFリザーブ	332	326	327	335	339	3.4	△ 4.9
その他	67	67	67	67	67	0.7	544.9
合計	10,186	10,050	9,989	9,946	9,921	100.0	△ 9.1

(出所) ベネズエラ中央銀行、IMF から弊社作成 ※緑色で塗られている箇所は暫定値

**21年の外貨準備増加分は使用できない**

前ページのグラフを元に2018年～21年末までの外貨準備の推移を確認したい。

2018年1月時点の外貨準備は約96,5億ドル。18年3月には一時100.9億ドルまで増加したものの、その後は着実に減少しており、約3年半が経過した21年9月には61.8億ドルまで減少した。

しかし、IMFがCovid-19対策の一環で加盟国に6,500億ドル相当の特別引き出し権(SDR)を配分。ベネズエラもIMF加盟国として約50億ドルのSDRの配分を受け、21年9月に外貨準備は112.8億ドルに上昇した。

ただし、IMFはマドゥロ政権をベネズエラ政府と明確に認識しておらず、マドゥロ政権がSDRを使用することは出来ない。

従って、50億ドルほど増えたSDRは“絵に描いた餅”のような状態になっている。

2023年に入り、グアイド暫定政権が解散した。これによりベネズエラ政府として存在しているのはマドゥロ政権のみとなった。

IMFは欧米の投票権が強い国際組織だが、暫定政権が終了すれば、マドゥロ政権をベネズエラ政府と認識する加盟国は増えるだろう。

あまり楽観視できないが、その場合は眠っていた50億ドルが使用できるようになるのかもしれない。

**2022年 約10億ドル減少**

次に2022年の外貨準備を確認したい。

前ページのグラフの通り、2022年の外貨準備は着実に減少している。

2021年末時点で109.2億ドルあった外貨準備は22年末には99.2億ドルと約10億ドルも外貨準備が減少した。

内訳をみると、特に「GOLD」の減少が激しい。

21年末は45.6億ドル相当のGOLDを保有していたが、22年末には39.1億ドルと前年比14.3%(6.5億ドル)減少した。

また、SDRも21年12月末の約51.1億ドルから22年末には約47.8億ドルと前年比6.4%(3.3億ドル)減少した。

前述の通り、マドゥロ政権はSDRを引き出すことができない。SDRが減少した理由は、SDRの米ドルに対する評価が下がったためと思われる。

他、流動性の観点から最も重要な「現金外貨」は21年末の8.8億ドルから22年末には8.2億ドルと0.5億ドルの微減となった。

## 1年でGOLD10トン超を現金化

ベネズエラ中央銀行の公式資料から割り出される2022年12月末時点のGOLD保有量は、約68.5トン。

一方、21年12月時点のGOLD保有量は78.8トンだった。つまり、2022年中に10トン超のGOLDを現金化したことになる。

GOLD売却の正確なタイミングは分からないが、22年1月～6月中に1度(約5トン)、22年7月～12月にもう1度(約5トン)のGOLDを現金化したことは間違いないだろう。

なお、2021年には約7トンを売却しており(「[ウィークリーレポート No.240](#)」参照)、22年は特にGOLDの切り崩し額が大きかったことが分かる。

## 外貨準備余力 危機的な状況にはないが

約69トンあるとされる外貨準備のうち、31トンは英国銀行で保管されているが、英国はマドゥロ政権によるGOLDの引き出しを認めていない。

従って、マドゥロ政権のGOLD切り崩し余力は38トンほどと言える。

十分な量とは言えないが、過去のGOLD減少スピードを見る限り、あと3年ほどは同じペースでGOLDを切り崩すことが可能という見方もできる。

それまでに英国のGOLD凍結問題を解決、あるいは50億ドルのSDR使用权をマドゥロ政権が奪還すれば外貨準備の余力は回復する。

従って、現時点で外貨準備が極めてひっ迫しているとは言えないだろう。

ただし、未払い国債の支払いが出来るほど外貨準備が潤沢かと聞かれれば、答えは確実に「No」である。

マドゥロ政権は、数百億ドル規模の未払い債券を抱えており、現在の外貨準備では「焼石に水」だ。

現在のマドゥロ政権の資金余力、ベネズエラの石油産業の状況を踏まえると、債務再編時の大幅な減免は避けられない。

そして、制裁が長引けばベネズエラはその間、成長の軌道に乗ることが出来ず、外貨準備を切り崩し続けることになる。

従って、債務再編時の減免率は制裁が長引けば長引くほど大きくなるため、可能な限り早期に終わることが期待される。

以上